



高P連だより

〒060-0005 札幌市中央区北5条西6丁目1番 第二北海道通信ビル8F
 TEL (011) 232-0007 FAX (011) 232-0006
 URL : <http://www.hokkaido-koupren.com/>



第六十一回全国高P連大会北海道大会

「北海道・地域物産展」を終えて

大会副実行委員長 栗田 政男

広大な面積を有する自然豊かな北の大地北海道で開催された、今回の全国大会を準備企画する中で全国の友人達をオール北海道でお迎えしたい、そして、この機会に北海道の素晴らしさを発信させていただきたいとの思いで、「北海道・地域物産展」を実施しました。

参加できる支部を募り、高校生の関連する食材を中心に手作りの物産販売ブースで、PTAはもちろん現役の高校生の力を借りながら、二日間にわたり屋外のブースで時折降る強い雨に打たれる等多少の苦労はありましたが、それ以上に新しい形での販売手法と地域のPR等の効果が、十分に達成されたことと思います。

入口では雪だるまと、網走市提供の流水がお出迎えをしてくれ、流水パタラやミス流水の皆さんが花を添えて下さいました。準備時には多くの困難もあり、遠い地域では500km近くの道のりをトラックで駆けつけてくれた仲間達と一緒に、この大会に参加できたことに心より感謝申し上げます。大会事務局のみなさんには、大変なご尽力をいただいたことを、この場を借りてお礼申し上げ、地域物産展の事業報告とします。

第六十一回全国高P連大会北海道大会 北海道・地域物産展を振り返って



8月25日(木)、午前7:00、メイン会場「北海きたえーる」の南庭に設置された9張りのテントの中に、各支部からの特産品が次々と運ばれている。8:00の開店を目指して支部総がかりでの準備作業である。こうして、2年前から計画された、「北海道・地域物産展」が、各支部の理解



と協力のもと、日の目を見たのである。8:00を過ぎると、全国の参加者の来場が始まり、物産展の会場は人の波でうずまいた。持ってきたアイスクリーム300個は、一瞬のうちには売れ切れ、「明日何を売ったらいいのか」と元支部長は嬉しそうに困惑していた。(根室支部)



雨に見舞われたが売れ行きは予想以上であった。全国の参加者からいろいろと質問を受けたが、「この大会は、オール北海道として取り組み、各地域はブース等の出店で協力しています。」と説明すると、「北海道ならではのですね。」と皆様に感心していた。この物産展を仕切ったのは、栗田政男副実行委員長(前北見支部長)で、テントや発電機の手配、そして夜中まで物品の身回りをするなど、並々ならぬご苦労をいただいた。改めて皆さんのご協力に感謝いたします。

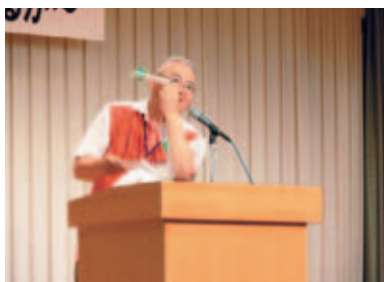
各支部等からのご意見・ご感想

- ◆商品の売れ方については、天候があいにくだったにも関わらず予想以上に売れました。全国の方に本校の開発した商品を知ってもらおうとでもいい機会になりました。
- ◆各業者とも予定していたより売り上げがあったとのこと。 (後日送付分が好調であった)
- ◆生徒も夢中になって販売を行い、日頃の学習の成果を十分に発揮でき、今後の学習に生かすことができました。また、地元の特産品を全国に広めることができ、売上以上のPR効果上げることができました。ありがとうございました。
- ◆用意した商品はすべて完売することができました。特に、生徒の開発した商品の売れ行きが良かったです。販売30分で完売した商品もあり、その点販売予測に誤算があった。
- ◆全国大会では物産展に関わりまして大変お世話になりました。当支部としては、物産展については成功裡に終えたと考えています。出店いただいた各業者さんからも予想以上の売り上げがあり、また各市町のPRができた
- ◆と感謝されています。特に一日目で完売の商品が出たり、二日目も次々に完売商品が出て商品があればもっと売り上げを伸ばすことができたと思います。なお、26、27日に札幌駅の地下歩行通路にて販売会を継続実施したところもありました。
- ◆全国大会では書籍販売で大変お世話になりました。お陰様で多数の書籍を販売することができました。弊社の宣伝もさせていただきました。いただいたように思います。販売に際しては早いうちからご尽力いただき本当にありがとうございました。
- ◆本当にたくさんの方々がいて大会の大きさを改めて実感致しました。みなさん気さくな方で販売も順調かつ円滑に進めることができました。何かご縁がありましたら、また是非宜しくお願いたします。
- ◆全国大会の皆さんには販売の機会を与えていただきありがとうございます。特に切手類の販売が好調で、製品開発の自信につながりました。また、ゆうパックの利用も多く感謝しております。

平成23年度「高校生と語るつどい」

胆振支部

感動!!手作りロケット胆振の空へ



高P連胆振支部は、8月8日(月)・9日(火)の2日間、苫小牧グラウンドホテルニュー王子を会場に北海道高等学校PTA連合会胆振支部「高校生と語るつどい」21世紀をどう生きるか」を開催致しました。当日は管内14校から保護者・教員・生徒合わせて85名が参加。初日は、元苫小牧工業高校野球部監督の金子満氏による「信頼される」と裏切れない」と題した基調講演を開催致しました。金子氏は苫小牧工業高校の卒業生で卒業後はプロ野球、「毎日オリオンズ(現千葉ロッテマリーンズ)」に入団した選手であります。退団後は長年に渡り、苫小牧工業高校の野球部監督として、6度の甲子園に導いた方です。その経験から、「生徒の好きな

ことを楽しみながら、体を鍛え、友達作りをする大切さ」「教えとは人に希望を与える」等に参加者に語られました。講演後の質疑応答では多くの質問が参加者より寄せられる大変活発な基調講演でありました。その後は、分科会Ⅰを開催、苫小牧工業高校の上谷先生、本間先生を講師として、ペットボトルを利用したロケット製作に取り組みました。参加した生徒たちの悪戦苦闘して製作する姿がとても印象的でした。夕方には苫小牧工業高校のグラウンドへ移動し、製作したロケットの打ち上げを行い、



その滞空時間を競いました。空高く打ち上がるロケットや途中で落ちてくるロケットなど、参加者の一喜一憂の歓声の中、ロケット打ち上げを終了致しました。二日目は、苫小牧市社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員会委員長の名越晴男氏による「知の喜び」と題した講演会Ⅱを開催致しました。高校時代の話をはじめ、多彩な趣味の話など大変興味深く参加者も聞いておりました。また、定年後からの大学受験と大学生生活の体験を通して感じたこと、そして、「これからも知るといふ喜びを『知のチャレンジ』として生きたい思っている。」という言葉で締めくくり、会場より割れんばかりの拍手をいただきました。講演後は分科会Ⅱを行い、「仕事について」(楽しさ・つらさ・やりがい)をテーマに6班に分かれ話し合いを行いました。最初は戸惑って

いました生徒たちも時間の経過と共に活発な意見交換を行い、予定されていた時間を超える分科会でした。最後の全体会では各班の代表による報告と様々な角度からの発表とお礼を述べ、2日間にわたる研修を終えることができました。当事業に参加した生徒・保護者・教員からは「モデルロケット製作ではロケットが空高く打ち上がった時は感動しました」「皆、目標を持った生徒たちで、若者らしい誠実な考えを聞けま



しました。大人の方もたくさんお話しをしていただき良い交流になりました」「今回の時間はとても貴重で大人や他校の生徒とこうして集まって話す事なんて全くないので、とても参加して楽しかった」等の感想が寄せられました。最後に全日程を通して、若干運営における反省点がありました。天候にも恵まれ、大きな事故もなく成功裏に終了したことは、大変喜ばしい事であり関係者の皆様に感謝申し上げます。



後志支部

平成23年度「高校生と語るつどい」

絆～人と人との信頼・思いやり・支え合い



8月4日(木)・5日(金)の2日間、後志管内10校から48名の高校生、保護者、引率教員の参加をいただき、「21世紀をどう生きるか」をメインテーマに、平成23年度「高校生と語るつどい」が「ニセコいこの村」を会場に開催されました。今回の「語るつどい」は、3月11日に発生した東日本大震災をうけて、今一番必要かつ大切なことは「人と人との信頼、思いやり、支え合い」ではないかということで、「絆」をサブテーマとして、高校生と大人がみんなで語りあい、交流し、21世紀をどう生きるかについて考えてみようという趣旨で実施しました。1日目は、倶知安高校教諭小林卓司氏による「パラリンピックに参加して～可能性を信じて～」と題した基調講演を行いました。

た。小林氏は、コーチ兼視覚障害選手のガイド役として、長野・ソルトレイク・トリノと3大会連続してパラリンピックに出場し、井口(旧姓小林)深雪選手とのコンビで金メダル獲得を果たした経験から、「選手とコーチの信頼、思いやり、支え合い」が快挙達成につながったことについて熱く語っていただきました。その後、班別行動に移り、アイスブレイキング・自己紹介のあと、「ニセコミルク工房」へバスで移動し、アイスクリーム作り体験を行いました。羊蹄山を望む牧場の一角で、班員全員が共同して作業に取り組み、や



が出来上がったストロベリー味のアイスクリームを試食した時はあちこちから歓声が上がリ、全員笑顔で体験学習を終了しました。夜の夕食・交歓会では、食べ放題のバーベキューでおなかを満たし、班対抗クイズ大会で大いに盛り上がりました。就寝までの自由時間には温泉を楽しみ、ロビー等で会話が弾むなど、参加者の交流が一層深まりました。2日目は、まず、全体で震災に関するDVDを鑑賞した後、分科会に分かれ、前日の講演と東日本大震災に関するテーマを題材に、意見交換・討論を行いました。全体会では、各



班から討論内容の発表が行われ、「日々努力することの大切さを学んだ。」「今を一生懸命生きて将来の日本を支える。」「学校という壁を越えたネットワークをつくり、助け合って活動をしていきたい。」等の前向きな意見が報告され、真剣に討論した様子をうかがい知ることができました。アンケートでは、「高校生がしっかりとした意見を持っていることに驚いた。」「高校生の思考力や元気が素晴らしいと思った。」「他人の意見から考えさせられることも多く、参加して良かった。」「話し合うテーマが少々多いと思った。」「分科会の進

行は、もっと生徒に任せてもいいと思った。」「他校の生徒と討論できる絶好の機会であり、ましてや保護者や他校の先生と話すことができ、有意義な2日間だった。」等の意見・感想が寄せられました。今回の「語るつどい」は、高校生のみならず大人にとっても貴重な経験になりましたが、将来のある高校生は、今回の経験をきっかけにさらに成長することを期待しています。最後になりますが、2日間天候に恵まれ、事故もなく無事に終了することができました。ご協力いただきました関係者の皆様から感謝申し上げます。



名寄支部

平成23年度「高校生と語るつどい」

『自然豊かな大地のもと、地球環境問題にどう向き合うか』



10月28日午前7時。本日の天気、曇のち晴れ。降水確率、終日10%。風速3m。波高2m。バスの運行はOK。フェリーも出航可能。これでみんな稚内に来ることが出来る。天気が良いことで今回のつどいの成功は間違いないことを確信した。

名寄支部は広い。今日のこの事業に参加するために稚内に向け2台のバスは出発した。1台は朝8:30に枝幸高校前を、もう1台は朝7:30に遠く士別駅前を出発。そして、利尻・礼文からは無事フェリーが出航した。午前11時、会場である稚内全日空ホテルに名寄支部13校から72名が全員集合した。前回の参加者が40

名だったことを考えると、70名を超える参加者は実行委員会としても嬉しい誤算であった。

また、札幌から榊原会長、野瀬事務局長、留萌からは村山研修委員長が駆けつけてくれたことで「語るつどい」はおおおいに盛り上がった。

稚内での開催となるこの度の「語るつどい」のテーマは環境問題、特にエコ・エネルギー資源について考えてみることである。幸いにも稚内には自然エネルギーに触れ親しむことのできる施設が豊富にあり、街をあげて市民が取り組んでいることから、テーマはこれしかないかと昨年から企画してきた。一方、私たちはこの3月に発生した東日本の災害を通して、エネルギー問題に真剣に取り組む必要性を学んだ。その必要性を参加したすべてのメンバーが心の中で感じていたせいか、あらゆる場面で真剣に取り組む姿を目の当たりにして主催者である私たちの方が感激・感動。企画の内容は見学、



講演、観光、グルメと盛りだくさん。時間が足りない。

昼食後、開会式を済ませると、さつそく間宮林蔵(着ぐるみ)の洗礼を受ける(笑)。和やかに進むオリエンテーション、自己紹介タイム。メンバーを確認しあった一同は、2台のバスに分乗して、いざ視察に出発。宗谷岬、最北端の碑を見ながら、風力発電施設・ウインドファームに到着。稚内市職員のわかりやすい説明を聞きながら、太陽光発電施設・メガソーラーへ移動。最後に稚内公園に上り、風力発電施設を間近に見ることが出来た。ホテルに戻った後、今度は太陽電池を使ったスーパースーラーカーの製作を体験。誰もが真剣なまなざしで取り組む。特に、大人



は童心に返って目を輝かせていた。ソーラーカーの試走に満足したメンバーは、バスで港町稚内の中央埠頭にある副港市場に移動。そこでは、目前にサハリン(樺太)を臨む国境の街稚内を味わえるよう、歌手 兵頭二一ナ(ロシア人ハーフ)さんのミニコンサートを開催。その後、8月の全国大会のアトラクションで大絶賛を受けた「南中ソーラン」を観戦。ひと時の買い物を楽しんだあと、稚内のグルメを堪能した。

ホテルでの就寝までの2時間余りの自由交歓では、多くの高校生が学校や地域の壁を越えて楽しい時間を過ごしていたのが印象的であった。翌日29日は、朝から稚内市の職員による「将来のエネルギー構想」の講演を聴



き、その後、グループ討論を行ない自然エネルギーに対する自分たちの考え、感じたこと等をまとめた。初めてであろうKJ法の手法を使つてのグループ討論でも、先生たちの進行のおかげで予想以上の図解化ができた。全体会での各グループの発表は、誰もが賛同と感動を覚え、閉会式を迎えた。事業を終え参加したメンバーの94%の方から「参加してよかった」との感想をいただくことができた。「稚内のいろいろな施設や街の魅力を知ることが出来て良かった」「多くの人と知り合い、交流を深めることが出来て良かった」という意見が多かったことは非常にうれしい。関わって下さった多くの皆さんに心から感謝をして、報告とします。

第55回

定通生活体験発表大会

最優秀賞

『ちよつとした勇氣』

北海道札幌琴似工業高等学校 4年 渡辺 大介



僕は今、札幌中央卸売市場で働いています。朝5時に起き職場に向かいます。朝の朝は早く、おじさんたちの威勢のよいかげ声が毎日僕を迎えてくれます。僕の仕事は車に荷物を積み込む作業です。70キロを超える荷物も持ち上げなければならず、腰を痛めたこともあります。ですが、4年目の今では上司に「頼りにしてるぞ」と、声をかけられるようになり、少しは戦力になってきたんだと嬉しく思います。

しかし、昔の自分は大勢の人の中で働くなんてできない人間でした。小さいときから太っていた僕は、よくからかわれ、中1になるとからかいはエスカレートしていき、「おまえうぜえ、くせえんだよデブ、こつち来るな」と言われるまでに。体型にコンプレックスを持ち、学校に行くのが嫌でした。そんな時、幼馴染がバトミントン部に誘ってくれたのです。練習は厳しかったけど、クラスで嫌なことがあっても部活があると思うと、毎日学校に行く事ができました。

しかし、半年後の大会。僕の学校が当番校になり、他校生も大勢集まっていた。開会式が10分後に終わったとき、僕はふと、教室に給食費を忘れたことを

思い出しました。慌てて顧問に事情を話すと、体育館中に響き渡るような声で、「何言ってるんだ！開始直前の緊張している時、場を壊すような事を言うな！早く取って来い！」と怒鳴られたのです。僕は、無我夢中で教室に駆け込みました。給食費はありませんが、それどころではありません。頭の中は真っ白でした。

体育館に戻って謝る僕に、顧問は「そうか、わかった。今日はもう帰れ」と目を合わせず言ったのです。僕は言葉に詰まり棒立ちでした。やっと事態が飲み込め、「すみませんでした」と消え入るような声で謝り、トボトボと家に帰りました。あんなに慕っていた先生を怒らせてしまった。みんな僕を見ていた、軽蔑するだろう。もう誰からも相手にされない。後悔と恥ずかしさ、悔しさがこみ上げ涙が止まりませんでした。唯一の救いだった部

活。もう学校に僕の居場所はない。何かがブツンと切れました。それからは、朝起きようとしても起き上がれない。何とか出かけようと玄関で靴を履いたら急にこみ上げてくる吐き気。結局学校へ行けなくなり、気がつけば僕の体重は105キロ。だるい、空しく長い一日がいつまでも、ずっと続きました。

中3の終わり頃、さすがにこのままではまずいと思いはじめました。そんな時、父が琴似工業高校定時制の卒業生だということ、働きながら卓球をやり、全国大会にも行ったこと、定時制でも資格を取れば就職できることを熱心に話してくれました。親がずっと心配してくれていたのだと改めて気づきました。そこで一からやり直そう。もう親に心配をかけたくない。その頃、父が失業し経済的にも厳しかった家計を、少しでも助

なつて第一線で働いているような、大げさに言えば「北海道の食は俺たちが支えているんだ」という気持ちになるからです。

働きながら学校に通うようになると、人間関係を築くのが苦手だった僕にも声をかけてくれる友人が出来る、クラスをまとめる室長にも推薦され、引き受けている自分がいました。断念したバドミントン部にも入り、僕の止まっていた時間が一気に動き始めたのです。

入学後、学校から現在の中央卸売市場を紹介してもらい採用になりました。僕は活気ある市場が大好きです。何だか自分も大人に

メラに撮られる側になりました。大勢の人の前で照明があたり、カメラに向かつて俳優になりきっている自分。信じられません。心躍る楽しい体験でした。

また、第2種電気工事士の資格試験にも挑戦しています。将来はこの資格を生かした仕事につけたいなど考えています。この4年間、琴似工業定時制で「ちよつとしたきつかけをチャンスにして自分のものにする」と、人生はこんなにも広がりました。わかっていくんだと知りました。ちよつとした勇氣、これが中学生の僕には全く出せなかった。この学校にきて本当に良かったと、心から思います。因みに現在の体重は75キロ、30キロの鎧を取っ払った僕の前には、挑戦したいものが山ほどあります。

僕はこれからの人生に困難なことがあっても、決して逃げず、くじけず、チャレンジし続け、前に進んで行きたいと思います。ちよつとした勇氣をだし！ ご清聴ありがとうございます。

ご挨拶

前北海道高等学校PTA連合会会長
前(社)全国高等学校PTA連合会会長

高間 専逸



会員の皆様、北海道大会ご苦労様でした。全国大会は、毎年各地区を巡って開催され、各地区が工夫を凝らし運営されることに大きな意義がありました。

私たちも、北海道で開催するにあたり、何としても北海道らしい大会を創り上げたい、先般も、京都での全

PR用のDVDも2回もだめだしを仕事局には大変ご苦労をかけましたし、地域物産展にしても各地区の皆様にも大変ご協力を頂きました。はじめの全国大会運営なのに、今までにない全国大会にするんだとか、北海道らしい大会にするんだとか、実行委員会の皆様はじめ、多くの会員の皆様にご協力を頂きました。

また、道高P連の会長でありながら、全国高等学校PTA連合会、副会長・会長として、北海道高等学校PTA連合会の事業等の参加をはじめ、時には会議にも出席出来ないこともあったことに対して、お詫び申し上げなければいけないと思います。そして榊原会長をはじめ役員の皆様

のご支援ご協力に心より感謝申しあげます。また、全国会長という重責を全うできましたのも、全国から出向いただいた役員の方々のご支援の賜物と、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。

PTAの活動はエンドレスであります。北海道の榊原会長として全国高P連相川会長を支えていただき、北海道そして全国の高校生への応援をお願いいたしまして、私のお礼のご挨拶とさせていただきます。

国会長事務局長会議や、東北地区大会においても、今までのない大会で大変すばらしいかったとの、お褒めを頂いているところでもあります。

度活動の趣旨目的を明確にし、子どもたちの応援団として、大人であり保護者としての取り組み・活動をしていただければと思います。最後に全道の会員の保護者の皆様、加盟校の校長先生はじめ教員の皆様、そして、北海道高等学校PTA連合会の野瀬局長はじめ事務局の皆様にご挨拶を申し上げます。

の心よご支援ご協力に心より感謝申しあげます。また、全国会長という重責を全うできましたのも、全国から出向いただいた役員の方々のご支援の賜物と、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。

※前号で誤りがありましたので、再度掲載いたします。お詫びして訂正いたします。

平成23年度 北海道高等学校PTA連合会役員・理事・委員等名簿

No.	役職	所属等	氏名(校名)	所属委員会	備考
1	会長	石狩	榊原 綾子(札幌国情)	-	全国:研修委員
2	副会長	留萌	松本 栄司(留萌)	健全育成	全国:健全育成委員・専務理事
3	〃	石狩	山本 富造(札幌新川)	総務	全国:進路対策委員
4	〃	石狩	中島 圭(石狩翔陽)	研修	全国:調査広報委員
5	〃	石狩	辻 敏裕(札幌南)	総務	北海道高等学校長協会会長
6	監事	石狩	佐藤真弓美(札幌工業)	健全育成	
7	〃	胆振	村上 義人(苫小牧西)	研修	
8	〃	石狩	長谷部直樹(札幌篠路)	総務	
9	理事	石狩	大貫 司(恵庭南)	総務	総務委員長
10	〃	石狩	原 貴彦(札あすかぜ)	研修	研修副委員長
11	〃	道南	岩瀬 憲昭(函館中部)	健全育成	健全育成委員長
12	〃	後志	大代 貴輝(倶知安)	研修	
13	〃	空知	新川 勝久(岩見沢東)	総務	
14	〃	旭川	岡田 政勝(旭川東)	研修	
15	〃	留萌	村山ゆかり(留萌)	研修	研修委員長
16	〃	名寄	矢部 和久(稚内大谷)	研修	
17	〃	北見	釜澤 達也(北見柏陽)	総務	総務副委員長
18	〃	十勝	小林 孝幸(帯広工業)	健全育成	
19	〃	釧路	羽田野善光(釧路江南)	健全育成	
20	〃	根室	大村 学(中標津)	健全育成	健全育成副委員長
21	〃	胆振	熊谷 克己(苫小牧工)	研修	
22	〃	日高	高野恵里子(浦河)	総務	
23	〃	校長協会	玉利 和弘(札幌月寒)	総務	協会指名理事(筆頭副会長)
24	〃	〃	中村 至(文教大明清)	健全育成	〃(理事)
25	〃	〃	牧野 篤(札幌国情)	研修	〃(特別理事)
26	〃	〃	渡邊 政美(岩見沢東)	健全育成	〃(空知支部長)
27	〃	〃	藤岡 二郎(恵庭南)	研修	〃(石狩支部選出理事)
28	〃	〃	古屋 睦雄(札あすかぜ)	健全育成	〃(石狩支部選出理事)
29	〃	〃	山本 伸弘(野幌)	総務	〃(事務局長)
30	〃	教頭会	増田 雅彦(札幌西)	総務	道高校教頭・副校長会会長
31	〃	事務長会	松田 茂樹(札幌東商)	総務	道公立学校事務長会会長
32	〃	養教研会	大村 道子(札幌東)	健全育成	道養護教諭研究会副会長
33	〃	次期開催支部事務局長	宮川 明子(旭川東)	研修	旭川東高校教頭(定)

北海道高等学校PTA連合会は、高校生のための「災害補償制度」を主催しています。

- ☆平成24年4月1日から「給付規程」を改正します。
- ☆変更点：通院給付の3日免責条項を撤廃し通院一日目から給付されます。

多くの学校の参加を期待しております。

私にジャストフィットする保険を選ぶなら
いろいろなかたちの「安心」があるエース保険。

いつでも、どこでも、今日も、未来も。どんな人にもぴったりな「安心」と「満足」を、エース保険が提供いたします。



エース保険
ace Insurance

空知支部

「家族のきずな・地域の絆」

空知支部長 新川 勝久

(北海道岩見沢高等学校PTA会長)

「絆」きずな。三月に起きた、未曾有の「東日本大震災」以後、さまざまな復旧・復興の取り組みの中にあって、「家族の絆」、「地域の絆」そして、人と人とのつながりの大切さなどを改めて実感した方も多いのではないのでしょうか。

ある調査によると、東日本大震災は、「家族の絆」意識や家族に対する責任感を強めただけでなく、父親が家族と過ごす時間が増加するなど、親としての行動にまで大きな影響を与えたことも明らかになっていきます。

空知支部は、十一月十六



日(水)岩見沢平安閣において、榊原綾子道高P連会長のご出席をいただき、参加者百二十名の中で「空知支部秋季研修会」を開催いたしました。

今回は、「WONT BE LONG」という大ヒット曲

で知られる、歌手のブラザー・コーン氏を講師にお招きし、「子どもの成長と家族の愛情」と題して講演をいただきました。同氏は華々しい芸能活動を続ける中、重い腎臓疾患を患ってしまい、透析治療を受けていましたが、それは余命を宣告されるほどに重いもので、腎臓移植しか道は残されていませんでした。ご家族が腎臓の提供を申し出てくれ、「こんな自分に健康な人間の腎臓をもらって本当にいいのだろうか」と相当悩んだそうで、その後、現在の医療技術では血液型が一致していなくても腎臓の提供が可能であることが分かったときには、奥様が一番喜んでくれたそうです。二〇〇六年、奥様が

ら腎臓移植により疾患は完治し、今回の腎臓疾患をきっかけに奥様との絆がよりいっそう強くなったそうです。芸能界活動にも復帰しています。



研修会の終了後、講師のブラザー・コーン氏を含め、九八名が参加して懇親会を行い、最後には同氏が「WONT BE LONG」を熱唱してください、会場は大いに盛り上がりました。最後にになりますが、昨年

から空知支部の当番校を仰せつかり、昨年の「高校生と語るつどい」や「研修会」といった大きな行事も、道高P連のご支援や各単Pのご協力により、無事終了することができましたことを心よりお礼申し上げます。空知支部からの報告といたします。

日高支部

地域を知り、郷土愛へと

日高支部長 高野 恵里子

(北海道浦河高等学校PTA会長)

日高の峰々にも雪が積もり、乾いた風と共に冬の訪れが刻一刻と近づいています。日高支部は現在、8単Pから構成されており、5月27日(金)には、浦河高校会議室において、北海道高等学校PTA連合会の松本衆司副会長、同じく田村裕明事務局次長にご出席をいただき、支部役員総会を開催いたしました。

10月29日(土)には、えりも高校においてAブロック研修会を開催いたしました。学芸員の岡利泰氏から、えりもの風土の説明を聞き、えりもの地形を生かした教育活動の紹介を受けました。ゲームの普及で、子どもたちが外で遊ぶことが減ったことから、自然と



触れ合うことを通じて、岩のごつごつした感じや木の匂いなど、5感をつかって感覚を研ぎ澄ませ、さらには郷土愛へとつなげることの重要さを認識させられました。

講師の説明の後、えりも岬までバスで移動し、その間の大地が形つくられた過程や、えりも和牛の話、岬の緑化事業の話などの解説をしていただきました。えりも岬に到着すると灯台にまつわる話や群生しているゴマフアザラシの生態や周辺の集落に住む人の生活の様子についての説明を受けました。

観光施設の「風の館」に入館すると、担当の職員から、海の漂着物の説明を受け、日本国内からだけではなく、ロシア・韓国・中国からの漂流物、さらには南の島からの椰子の実など、多くの漂着物が流れ着いていることがわかりました。その後、漂着物の中の流木を使って、「流木鉛筆」を制作し、童心にかえり、えりもの自然を満喫しました。

研修を終えて、同じ日高に住んでいながら、近隣の町の知らないことや他町の特色ある教育活動を学んだ一日でした。



11月23日(水)には、静内高校においてBブロック研修会を開催し、12月10日(土)には浦河高校で支部研修会を開催する予定です。支部研修会では、千歳市教育委員会のカウンセラーである臨床心理士の河岸由里子氏を講師として招き、最近の高校生についての講演をいただく予定です。

最後になりますが、日高支部の事業を運営するにあたり、ご協力いただきました日高管内の各単Pの皆様及び、道高P連関係者の方々に、心より感謝申し上げます。支部の報告といたします。